

日本人類学会  
平成 30 年度 評議員会・総会資料

日時：平成 30 年 10 月 21 日（日）12:00～13:45  
場所：三島市民文化会館（ゆうゆうホール）小ホール

次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 物故会員への黙祷
5. 報告
  - 1) 平成 30 年度事業報告
  - 2) 平成 30 年度収支決算報告
  - 3) 平成 30 年度会計監査報告
  - 4) 平成 30 年度 Anthropological Science 論文奨励賞審査報告
  - 5) 第 72 回大会 若手会員大会発表賞
  - 6) 自然史学会連合の報告
  - 7) 国際人類民族科学連合（IUAES）の報告
  - 8) 日本学術会議からの報告
  - 9) その他
6. 審議
  - 1) 平成 31・32 年度理事の承認
  - 2) 名誉会員の推薦・承認
  - 3) 平成 31 年度事業計画
  - 4) 平成 31 年度予算案
  - 5) 学会の社団法人化について
  - 6) その他
7. 閉会の辞

## 5. 報告

### 1) 平成 30 年度事業報告

#### 1) - 1. 庶務 (学会)

##### (1) 会員

###### a) 会員異動状況 (平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日)

入会：通常会員 24 名 (国内 24 名)，学生会員 6 名 (国内 6 名)

退会：通常会員 19 名 (国内 18 名，国外 1 名，内評議員 10 名)，名誉会員 2 名 (国内 2 名，内評議員 2 名)，学生会員 6 名 (国内 6 名)，団体会員 1 名 (国内 1 名)

資格変更：学生会員から通常会員 5 名 (国内 5 名)，通常会員から通常会員評議員 2 名 (国内 2 名)，通常会員前納評議員から名誉会員 1 名 (国内 1 名)

###### b) 会員数 (平成 30 年 8 月 31 日現在)

正会員：通常会員 526 名 (国内 516 名，海外 10 名)，学生会員 88 名 (国内 88 名)，名誉会員 12 名，したがって正会員総数 626 名 (内評議員 135 名)

団体会員：52 団体 (国内 51 団体，国外 1 団体)

賛助会員：3 団体 (国内 3 団体)

###### c) 物故会員

芦澤玖美氏 (平成 29 年 12 月 28 日ご逝去)

小片丘彦氏 (平成 30 年 1 月 18 日ご逝去)

猪口清一郎氏 (平成 30 年 2 月 14 日ご逝去)

尾崎公氏 (平成30年8月30日ご逝去)

##### (2) 新評議員

瀬口典子氏 (平成 29 年 12 月 26 日理事会承認)

##### (3) 委嘱状の送付

AS論文奨励賞2018・2019年度選考委員 (平成30年2月1日付け)

##### (4) 感謝状の送付

AS論文奨励賞選考委員退任者安達登氏、佐伯和信氏 (平成30年2月1日付け)，

##### (5) 学会功労賞

当該規定 2 条の(1)該当者の下記 10 氏を受賞者として表彰した。

安部みき子氏，安溪遊地氏，河内まき子氏，佐藤巖氏，鈴木正博氏，鈴木隆雄氏，高山博氏，松浦秀治氏，松下孝幸氏，山極寿一氏， (平成 30 年 4 月 1 日付け)

##### (6) 諸会議

総会・評議委員会 1 回 (平成 30 年 10 月 21 日)

理事会 5 回 (平成 30 年 2 月 3 日，4 月 22 日，7 月 1 日，9 月 8 日，10 月 20 日)

##### (7) 学術集会

###### a) 第 72 回日本人類学会大会

日程：平成 30 年 10 月 19 日～10 月 22 日

会場：三島市民会館・国立遺伝学研究所

大会長：斎藤 成也 (国立遺伝学研究所)

###### b) 公開シンポジウム「日本列島人 1000 万年」

日程：平成 30 年 10 月 21 日

会場：三島市文化会館 小ホール

c) 第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウム「眠りの人類学：人は夜をどのように過ごしてきたか」

日程：平成30年6月16日

会場：九州大学大橋キャンパス

日本人類学会からは太田博樹氏が講師として派遣された。

d) 分科会（大会の開催に合わせて実施された分科会のシンポジウム等については、実施日が次年度〔総会の翌日以降は次年度となる〕に入っている場合、当該年度〔総会開催日まで〕の活動報告にまとめるものとする）

①キネシオロジー分科会

・第72回日本人類学会大会 シンポジウム「遠藤万里先生のご研究が残したもの（温故知新）」-キネシオロジー分科会・ヘルスサイエンス分科会合同シンポジウム- 2018年10月22日 三島市

②骨考古学分科会

・日本考古学協会84回総会 日本考古学協会との共同セッション「喜多方市灰塚古墳の学際的研究」 2018年5月27日 明治大学（東京） オーガナイザー：奈良貴史 辻秀人  
 ・第72回日本人類学会大会 シンポジウム「縄文人の骨考古学—そのさらなる発展へ向けて」 2018年10月20日 三島市 オーガナイザー：海部陽介・奈良貴史・米田穰

③進化人類学分科会

・第41回シンポジウム「原経済の行為論—大型類人猿と狩猟採集民における食物の授受をめぐる—」 2018年6月9日 キャンパスプラザ京都（京都市） オーガナイザー：竹内 潔（総合地球環境学研究所）  
 ・第42回シンポジウム 初期人類の睡眠を考える：森林とサバンナの昼と夜（開催予定） 2018年10月21日 三島市民文化会館・国立遺伝学研究所（三島市） オーガナイザー：座馬耕一郎（長野県看護大学）

④遺伝学分科会

・来年度公開講演会の準備を行った。  
 日本人類学会遺伝学分科会公開講演会（参加無料・事前登録不要） 2018年11月17日（土） 15:00～17:00 東京大学（東京都文京区）理学部2号館201講義室 飛騨高地住民のDNA解析より日本人成立過程がわかる 住斉（東京大学大学院理学系研究科・客員共同研究員）

⑤ヒト・霊長類比較解剖学分科会

・ニュースレターの発行 10月22日発行予定  
 ・研究シンポジウムの開催 第72回日本人類学会大会 ヒト・霊長類比較解剖学分科会 -頸胸部体幹筋群と前肢帯 - 平成30年10月22日（月） 国立遺伝学研究所 オーガナイザー：影山幾男（日本歯科大学）、時田幸之輔（埼玉医科大学）  
 研究会の開催 人体の基本構成を考える-体幹・胸部内臓一括摘出- 第12回「肉眼解剖学セミナー新潟」 最終日8月18日 日本歯科大学新潟生命歯学部 主催者：影山幾男

⑥ヘルス・サイエンス分科会

・第72回日本人類学会大会シンポジウム「遠藤万里先生のご研究が残したもの（温故知新）」-キネシオロジー分科会・ヘルスサイエンス分科会合同シンポジウム- 2018年10月22日 三島市

(8) シンポジウム等の共催（共同主催を含む）、および協賛・後援の承諾

平成30年1月15日付け依頼，1月17日承諾回答：2017年度 東北大学・春期骨学セミナー（歯・頭蓋）（2018年3月3日～3月6日，東北大学）（後援）

平成30年5月6日付け依頼，5月10日承諾回答：第6回新潟医療福祉大学・夏期骨学セミナー10周年拡大バージョン（2018年8月28日～9月2日，新潟医療福祉大学）（後援）

(9) 2018・2019 年度日本人類学会 会長選挙

会則および規定に従い，選挙管理委員会が平成30年6月4日付けで告示し，2018・2019 年度日本人類学会会長第1次選挙を平成30年6月4日～6月15日の間に行った。選挙権者135名のうち投票者数は52名，総投票数104票，有効投票数104票，投票率は38.5%であった。役員選出規定に基づき，第1次当選者を篠田謙一氏（25票），石田肇氏（19票），諏訪元氏（7票），中務真人氏（7票）の4名としたが，諏訪元氏が辞退したため，第1次当選者を篠田謙一氏，石田肇氏，中務真人氏の3名とした。選挙管理委員会が平成30年7月2日付けで告知し，2018・2019 年度日本人類学会会長第2次選挙を，平成30年7月2日～7月13日の間に行った。選挙権者598名のうち投票者数は134名，総投票数134票，有効投票数134票，投票率は22.4%であった。篠田謙一氏（84票），石田肇氏（39票），中務真人氏（11票）のうち篠田謙一氏が当選者となった。

(10) 2018・2019 年度日本人類学会 理事候補者選挙

会則および規定に従い，選挙管理委員会が平成30年8月3日付けで告示し，平成30年8月6日～8月17日を投票期間として，評議員を選挙権者および被選挙権者として，6名以内の無記名投票による選挙が行われた。選挙権者134名のうち投票者数は46名，総投票数276票，有効投票数271票，投票率は34.3%であった。河野礼子氏（31票）、海部陽介氏（27票）、近藤修氏（22票）、河村正二氏（20票）、荻原直道氏（18票）、五十嵐由里子氏（13票）の得票上位6名が当選者となった。

1) - 2. 庶務（理事会）

- (1) 会長の発議で学会の法人化に関する情報収集を行なった。庶務（理事会）理事・会計理事とこの件に詳しい河村理事が担当し、学会事務局の中西印刷株式会社および同業他社からも話を聞いた。

1) - 3. 会計

- (1) 会費請求を5回（うち督促3回）行った。  
 (2) 通常の支払い業務を行った。  
 (3) 第72回大会実行委員会に対し実施補助費として50万円を支給した。  
 (4) 分科会のうち申請のあった進化人類学分科会，骨考古学分科会，ヒト・霊長類比較解剖学分科会に対し，活動補助金として各々2万円を支給した。  
 (5) 人類学普及委員会に対し，活動補助金として20万円を支給した。  
 (6) 2018年9月20日，会計監査役の近藤恵氏と長岡朋人氏により，会計監査が実施された。（末尾資料）。

1) - 4. 出版

- (1) 平成 29 年度機関誌（Anthropological Science [AS], Anthropological Science (Japanese Series) [ASJ]）の出版状況。

- AS 誌 125 巻 3 号 論文 3 編 (原著 3) , 大会抄録  
 AS 誌 126 巻 1 号 論文 6 編 (レビュー 5, 原著 1)  
 AS 誌 126 巻 2 号 論文 7 編 (原著 4, 短報 2)  
 ASJ 誌 125 巻 2 号 論文 3 編 (寄書 1, 書評 2)  
 ASJ 誌 126 巻 1 号 論文 7 編 (原著 3, 技術報告 1, 寄書 1, 雑報 1, 書評 1)
- (2) 米 ISI 社, Journal Citation Report による Impact Factor  
 2017 年=0.618 (2016 年=0.971, 2015 年=0.703)
- (3) J-Stage で公開中の AS 掲載論文の年間 PDF アクセス数推計 (2018 年 1 月~8 月×12/8)  
 AS 誌 =30,076 (前年比 12.3%減) , ASJ 誌 = 36,108 (前年比 98.9%増)
- (4) AS 誌のさらなる発展について検討するため平成 30 年 10 月 20 日に編集委員会を実施した。
- (5) 科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) 「国際情報発信強化(B)」の申請が不採択となった。

#### 1) -5. 渉外 [国内]

- (1) 人類学会への寄贈和文雑誌の受け入れについて従来通り処理した。
- (2) 2017 年 12 月 17 日 (日) に、シンポジウム「考古学・人類学とアイヌ民族-最新の研究成果と今後の研究のあり方-」(日本考古学協会主催、日本人類学会・北海道アイヌ協会共催、文部科学省後援)が、東京大学文学部で開催された。人類学会からは、「オホーツク文化人と琉球人:アイヌ民族との接点を求めて」(石田肇)、「ミトコンドリア DNA からみたアイヌ民族の成り立ち」(安達登)が発表した。
- (3) 2018 年 1 月 10 日 (水) と 2 月 2 日 (金) に、これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル (第 13 回、第 14 回) が開催された。人類学会からは、中務真人理事と近藤修理事が出席した。人類学会からは、中務真人理事と近藤修理事が出席した。3 団体が出版主体となる一般向け解説書を 2020 年に発行するための計画が検討された。
- (4) 2018 年 1 月 10 日 (水)、4 月 5 日 (木)、5 月 11 日 (金)、7 月 13 日 (金) 及び 8 月 29 日 (水) にラウンドテーブル下の「研究倫理検討委員会」準備委員会が開催された。
- (5) 2018 年 1 月 18 日 (木)、小片丘彦名誉会員逝去にあたり、弔電及び供花を手配した。
- (6) 2018 年 8 月 3 日 (金)、第 35 回北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ (北海道アイヌ協会主催、北海道大学協賛) が執り行われた。日本人類学会からは、篠田謙一会長が参列した。
- (7) 2018 年 10 月 3 日 (水)、第 13 回札幌医科大学におけるイチャルパ (札幌大イチャルパ文化体験交流の集い) が開催された (北海道アイヌ協会主催、札幌医科大学・日本人類学会協賛)。日本人類学会からは、篠田謙一会長が出席し挨拶を行った。その他、百々幸雄名誉会員、石田肇渉外 (国内) 理事らが出席した。また、イチャルパ後の本会主催の講演会が行われ、防衛医科大学校の染田英利氏が講演を行った。

#### 1) -6. 渉外 [国外]

- (1) 日本人類学会への寄贈欧文誌について、従来どおり処理した。

## 1) -7. 企画

- (1) 平成30年度日本人類学会賞の推薦はなかった。
- (2) 平成30年度Anthropological Science論文奨励賞は、選考委員会（國松豊委員長）の審査と理事会の議を経て、該当論文無しと決定した。
- (3) 平成30年度シンポジウム・学術講演会等に対する科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「研究成果公開発表(B)」は不採択だった。

## 1) -8. 広報

- (1) 学会ホームページの適時更新をおこなった。
  - a) 会則、役員・編集委員・会員情報の更新。
  - b) ASJ 投稿規定, AS 論文奨励賞, 若手会員大会発表賞, 学会大会, 英語 HP, その他掲示板の更新など。
- (2) 会員メーリングリストの配信 (10回)。
- (3) 学会 HP サーバーの契約 (サイエンスウェブ) の更新

## 1) -9. 人類学普及

- (1) サイエンスアゴラに出展 (2017年11月25-26日) 「君はサルの壁を越えたか!? 骨を見て、サルとの違いを考えよう!」 (お台場・テレコムセンタービル)
- (2) 古代アメリカ学会の教育普及シンポジウム (2017年12月2日) 「高等学校を対象とした学会活動を考える」 (茨城大学) において「日本人類学会による高校生を対象とした教育普及活動の取り組み」を紹介し、意見交換を行った。
- (3) 文部科学省あてに、「平成30年新学習指導要領案」に対するパブリックコメントを提出した (2018年3月14-15日) 科学と人間生活 /基礎生物 /生物 /基礎地学 /地学 /世界史探究 /保健体育
- (4) 江戸川区子ども未来館において平成30年度ゼミ「人類学入門 ～科学がときあかすヒトの進化～」を行った。
  - 4月15日 (日) 米田穰 (東京大学) 「頭蓋骨のひみつ」
  - 5月13日 (日) 戸坂明日香 (株式会社エーラボ) 「サルの顔とヒトの顔」
  - 6月10日 (日) 河野礼子 (慶応大学) 「歯の人類学」
  - 7月8日 (日) 竹内修二 (元常葉大学) 「二本足で歩く人類: 体つきの特徴」
  - 8月9日 (木) 松村秋芳 (防衛医大) 「ヒトの手と足: 手形と足形をしらべる」 (夏休み自由研究のテーマを提供)
  - 9月30日 (日) 米田穰 (東京大学) 「人類は何を食べてきたか」 東京大学総合研究博物館見学
  - 10月14日 (日) 市石博 (国分寺高校) 「脳の大きさをくらべてみよう」
- (5) 2018年7月に文部科学省から公示された「学習指導要領解説」に基づいた「教科書会社への提言」の作成作業を行っている。「科学と人間生活」、「生物基礎」、「生物」、「地学基礎」「地学」、「世界史探究」「保健体育」について、9月中旬に各教科書会社への送付を予定している。

## 2) 平成 30 年度収支決算報告

末尾資料

## 3) 平成 30 年度会計監査報告

末尾資料

## 4) 第72回大会 若手会員大会発表賞

## 5) 自然史学会連合 平成 29 年度活動報告

藤田祐樹（人類学会代表）

- ・ 2018 年 9 月におきたブラジル国立博物館の火災をうけ、「博物館資料保全のための緊急声明」をとりまとめ、連合ホームページに掲載する。
- ・ 一般対象の 2018 年度講演会を、2018 年 10 月 28 日（日）に富山市科学館にて開催する。
- ・ 2019 年 9 月 1～7 日に開催される第 25 回国際博物館会議京都大会（ICOM KYOTO2019）において、サイドイベントとして同年 9 月 4 日（水）に京都大学総合博物館で自然史学会連合国際シンポジウムを行うことを決定し、準備を進めている。

## 6) 国際人類民族科学連合（IUAES）の報告

河村正二（渉外理事）

IUAES Inter-Congress 2019, August 27-31, Poznan, Poland のウェブサイトが公開された。

<http://iuaes2019.org>

## 7) 日本学術会議からの報告

馬場悠男（日本学術会議第 23 期連携会員）

第24期の基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会は、山極壽一（委員長）、馬場悠男（副委員長）、河内まき子（幹事）、稲村哲也、印東道子、窪田幸子、斉藤成也、諏訪元、竹沢泰子、徳永勝士、長谷川壽一、宮崎恒二の12名で構成され、平成30年1月26日および9月13日に委員会が開かれた。主な議論と活動は以下のようである。

- ・ 山極委員長から、日本学術会議は単に提言を行うだけではないかとの批判に答えるために、提言の波及効果や提言に基づく行動を継続的に調査するという方針が説明された。その中であって、自然人類学分科会としては、「人類学者として日本の社会や政府に積極的に発信していくことの重要性」を認識している。
- ・ 人類学の発展のために、自然人類学分科会と、日本人類学会および日本霊長類学会との連携を強化することが必要である。そのため、両学会理事会メンバーに自然人類学分科会委員会のオブザーバになるよう要請した結果、第2回分科会委員会に両学会から各1名が出席した。今後の協力が期待できる。
- ・ 「学術大型研究計画 マスタープラン2017」には、諏訪委員が提案者となって「日本列島人の成立にいたる人類進化史の解明」を申請し採択された。次期のマスタープラン2020には、さらに発展させ、アジアにおける人類進化や生物学的文化的多様性を強調する方向が検討されている。
- ・ 特に、アジアにおける人類進化の調査研究が急速に発展しつつある中で、自然人類学の専

門家を養成するために、日本人類学会と協力し、戦略的具體策を検討する。

- ・ シンポジウムやサイエンスカフェを積極的に開催する。今年度は、竹沢委員によって3月3日に「DNAからみる集団と個 ～沖縄、日本、アジアを例として～」が開かれ、徳永委員も参加した。日本人類学会や日本霊長類学会との共同主催のシンポジウムも計画したい。
- ・ 若者と子供たちの歯並びを改善し睡眠時無呼吸症を防ぐために、古代人に倣って硬く大きな食物を食べることを心地よいと感じる食育を普及させる。矯正歯科の専門家との協力を進めている。

## 9) その他

## 6. 審議

### 1) 平成31・32年度理事の承認

次の8名の候補者について承認をお願いしたい：候補者選挙で選ばれた河野礼子氏、海部陽介氏、近藤修氏、河村正二氏、荻原直道氏、五十嵐由里子氏と、会長推薦の奈良貴史氏、中野良彦氏。

### 2) 平成31年度事業計画

#### (1) 諸会議

総会1回(平成31年10月), 評議員会1回(平成31年10月), 理事会5回

#### (2) 学術集会

##### a) 第73回日本人類学会大会

大会長：篠田謙一(国立科学博物館)

会場：佐賀大学

日程：平成31年10月12～14日

##### b) 各分科会

##### c) 第14回人類学関連学会協議会(日本文化人類学会, 日本民俗学会, 日本生理人類学会, 日本霊長類学会, 日本人類学会)合同シンポジウム

#### (3) 機関誌の冊子体, 電子ジャーナル版をそれぞれ年間5冊分発行(AS:126巻3号～127巻2号, ASJ:126巻2号～127巻1号)

#### (4) 受理論文の早期公開(AS, ASJ)

#### (5) 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化(B)」の申請

#### (6) 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)」の申請

### 3) 平成31年度予算案

末尾資料

### 4) 学会の法人化について

### 5) その他



# 日本人類学会 平成30年度 会計決算報告書

(平成 29 年 9 月 1 日 ~ 平成 30 年 8 月 31 日)

【本体会計】

(単位：円)


収入の部	予算	決算	増減	備考
会費	4,926,000	4,959,000	33,000	会費内訳
評議員費	124,000	128,000	4,000	通常会員(H30年度会費):3,536,000円(526名)84.0%
雑誌売上金	500,000	424,571	-75,429	通常会員(H29年度以前会費):248,000円
著者負担金	600,000	711,000	111,000	学生会員(H30年度会費):265,000円(88名)60.2%
科研費(国際情報発信強化費)	1,400,000	1,400,000	0	学生会員(H29年度以前会費):100,000円
科研費(研究成果公開促進費)	0	0	0	団体会員会費:660,000円(52団体)105.8%
広告料	40,000	80,000	40,000	賛助会員会費:150,000円(3件3口)100.0%
雑収入	100,000	97,836	-2,164	評議員費:128,000円(123名)104.1%
小計	7,690,000	7,800,407	110,407	※( )内は8月31日現在の会員数。 納入率は、会費収入÷(会員数×年会費)で算出
前期繰越金	5,409,026	5,409,026	0	広告料:ゼネラルサイエンス9月、10月分、 東京大学(ASJ125-2)
収入合計	<b>13,099,026</b>	<b>13,209,433</b>	<b>110,407</b>	雑収入:利子収入、学術著作権協会複写使用料 医学中央雑誌刊行会許諾抄録利用料、 メテオ文献権利許諾利用料

支出の部	予算	決算	増減	備考
出版費	4,500,000	4,223,818	-276,182	出版費(英:125-2, 125-3, 126-1 和:125-2, 126-1)
配本費	510,000	488,551	-21,449	印刷費:3,079,420円
HP運営費	50,000	43,848	-6,152	別刷印刷費用:91,638円
理事会費	500,000	252,298	-247,702	電子ジャーナル経費:269,460円
大会補助費	500,000	500,000	0	電子投稿システム費:292,140円
関連学会費	100,000	76,815	-23,185	編集費:491,160円
庶務費	20,000	0	-20,000	関連学会費
選挙関係費	550,000	551,556	1,556	IUAES年会費(2017年度分):56,815円
事務費	1,600,000	1,519,263	-80,737	自然史学会連合分担金(2017年度分):20,000円
学会賞等経費	300,000	291,968	-8,032	事務費
科研費(研究成果公開促進費)	0	0	0	事務委託料:1,306,800円(9-8月分)
分科会活動補助金	120,000	60,000	-60,000	OL決済システム利用料:9,720円(2017年3月-8月分)
人類学普及費	200,000	200,000	0	経費実費:202,743円
派遣旅費	200,000	61,230	-138,770	分科会活動補助
学会積立金	0	0	0	進化人類学、骨考古学、ヒト・霊長類比較解剖学
予備費	100,000	63,330	-36,670	派遣旅費 合同シンポジウム旅費
小計	9,250,000	8,332,677	-917,323	予備費 供花・吊電代
次年度繰越金	3,849,026	4,876,756	1,027,730	
支出合計	<b>13,099,026</b>	<b>13,209,433</b>	<b>110,407</b>	

監査の結果、平成30年度決算報告書に誤りのないことを認めます。

30年 9月20日

会計監査役 近藤 恵  印

会計監査役 長岡 朋人  印

# 日本人類学会 平成31年度 予算

(平成 30 年 9 月 1 日 ~ 平成 31 年 8 月 31 日)

(単位：円)

収入の部	H30年度決算	H31年度予算	増 減	備 考
会 費	4,959,000	4,957,000	-2,000	会費内訳(会員数は2018年8月31日現在) 通常会員(526名×90%) 3,787,000円 学生会員(88名×90%) 396,000円 団体会員(52団体×100%) 624,000円 賛助会員(3件3口×100%) 150,000円 評議員費(名誉会員以外 123名 × 95%) 117,000円
評議員費	128,000	117,000	-11,000	
雑誌売上金	424,571	450,000	25,429	
著者負担金	711,000	600,000	-111,000	
科研費(国際情報発信強化費)	1,400,000	0	-1,400,000	
広告料	80,000	50,000	-30,000	
雑収入	97,836	100,000	2,164	
小 計	7,800,407	6,274,000	-1,526,407	
前期繰越金	5,409,026	4,876,756	-532,270	
<b>収入合計</b>	<b>13,209,433</b>	<b>11,150,756</b>	<b>-2,058,677</b>	

支出の部	H30年度決算	H31年度予算	増 減	備 考
出版費	4,223,818	4,200,000	-23,818	出版費 英文誌 3号(126-2, 126-3, 127-1) 発行経費 210万円 和文誌 2号(126-2, 127-1) 発行経費 140万円 実費立替分(別刷・カラー一頁印刷費) 20万円 電子投稿システム利用料 30万円 編集費 20万円 理事会費 理事会出席者の旅費・交通費を含む 大会補助費 託児補助費を含む 選挙関係費 電子投票システム利用料を含む 事務費 事務委託料および経費実費
配本費	488,551	500,000	11,449	
HP運営費	43,848	50,000	6,152	
理事会費	252,298	400,000	147,702	
大会補助費	500,000	350,000	-150,000	
関連学会費	76,815	100,000	23,185	
庶務費	0	20,000	20,000	
選挙関係費	551,556	180,000	-371,556	
事務費	1,519,263	1,600,000	80,737	
学会賞等経費	291,968	300,000	8,032	
分科会活動補助金	60,000	120,000	60,000	
人類学普及費	200,000	200,000	0	
派遣旅費	61,230	200,000	138,770	
学会積立金	0	0	0	
予備費	63,330	100,000	36,670	
小 計	8,332,677	8,320,000	-12,677	
次年度繰越金	4,876,756	2,830,756	-2,046,000	
<b>支出合計</b>	<b>13,209,433</b>	<b>11,150,756</b>	<b>-2,058,677</b>	